

汐風通信

KANSAI UNIVERSITY of SOCIAL WELFARE

ちょうふうつうしん
2016 Number 58



第5回 子ども支援セミナー

- 夏休み宿題教室
- SSW 親子交流イベント
- スエーデン研修
- 看護学生研究会講演会



汐風通信

関西福祉大学汐風通信 No.58 2016年10月 日発行／関西福祉大学教育後援会
〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3 Tel.0791-46-2740 Fax.0791-46-2633
大学HP <http://www.kusw.ac.jp/> 教育後援会HP <http://www.kusw.ac.jp/kouenkai/index.html>

2016 58
Number

汐風通信

2016 Number 58

contents

第5回子ども支援セミナー	01
市民のタペアンテナショップ	02
夏休み宿題教室	03
図書館インターンシップ	04
スウェーデン研修	05
SSW親子交流イベント	06
看護学生研究会講演会	07
うちの学生こんな学生(内定者特集)	08
学生選書紹介	09
地域の伝行事ボランティア参加	09
坂越の船祭り	09
看護学研究科 博士後期課程設置	10
第2体育館建設工事	10
ひとくちメモ	10
編集後記	10

第5回 子ども支援セミナー



8月19日(金)に「第5回子ども支援セミナー」～さまざまな「生きる」課題を抱える子ども達の支援やケア～を開催しました。今年度の基調講演は加古川中央市民病院 小児科 臨床心理士の岡田由美子氏(兵庫県臨床心理士会副会長)を講師にお招きし、「発育・発達に課題を抱える子ども達の支援やケア」というテーマでご講演いただきました。発育や発達に課題を抱える子ども達にとってはもちろんその子を見守る保護者や家族への支援やケアが重要であること、必要な支援やケアのた

めには、地域の学校園や医療機関といった様々な専門機関との連携が重視されることなどについて、これまでの実践活動を基に、子どもやその家族への支え、地域がどのように支えていくかをお話いただきました。



昼食時には、社会福祉学部の八木ゼミ2年次生による活動報告やスクール(学校)ソーシャルワーカー養成課程の学生の実践活動報告、赤穂特別支援学校の教育課程についての展示が2号館1Fの学生ホールにて行われました。来場の方からは「いろいろな取り組みをされていますね」や「日ごろから実践的なことをされていますね」などの感想をいただきました。

午後からは3つの分科会にわたりての研修が行われました。第1分科会は「児童福祉施設における『性』と『暴力』に関する支援とケア」、第2分科会は「教育保育の現場における障害の

ある子どもへの配慮」、第3分科会は「A D H D児とその周辺の子どもへの理解と支援」のそれぞれのテーマについて、児童福祉施設や学校、保育園などにお勤めの方から保護者の方まで幅広くご参加いただき、どの会場も非常に活発な意見交換や質疑応答などが行われていました。特に第1文科会は児童福祉分野で働く卒業生の第1回フオローアップ研修を兼ねて実施しました。勤務を調整して20名以上の卒業生が参加してくれました。残暑厳しい中、ご参加いただきました皆様ありがとうございました。

次年度も今年度同様、多くの方にご参加いただけます。今後ともよろしくお願ひいたします。



附属地域センター「市民のタベ」出店報告



8月6日(土)、兵庫県立赤穂海浜公園にて開催された「第46回市民のタベ」に今年も附属地域センターが福祉アンテナショップを出店しました。

このアンテナショップは、授産品の販売を通じて就労支援や福祉について啓発することを目的としています。

今年はみのり赤穂、わかば園、フロンティアの授産品協力があり、赤穂精華園からは利用者と職員の方の参加もありました。

学生ならではの元気な呼びかけと笑顔で販売し、多くの方にお立ち寄りいただき授産品を購入いただきました。



赤穂高等学校図書部 インターンシップ

8月3日(水)～5日(金)の3日間、兵庫県立赤穂高等学校図書部の生徒17名(男子8名、女子9名)が、本学図書館において職場体験をしました。

本年度で4回目となります。新着図書の受入や新聞スクラップ、選書した本のPOP作成を行いました。

高校生からは「今まで体験したことのないようなことが体験できて楽しかった」「図書館についてもっと知りたい」「またこのような機会があれば参加したい」などの感想が寄せられました。



8月8日(月)・9日(火)は本学講義棟の教室や図工教室を使用して開催し、両日で約2000名の小学生が参加しました。小学生は持参した宿題を、学生スタッフのアドバイスを受けながら自分の力でやり遂げます。休憩時間には、おやつを食べたり手形アートで楽しんだりしました。

8月5日(金)・12(金)は上郡町、7日(日)は備前市で開催。上郡町では食育教室も開催し、今年は「巻き寿司」に挑戦しました。生スタッフは子ども達みんなが役割を持つて参加できるよう声をかけながら、楽しく作って食べる事ができました。

今後も、地域に開かれた大学として、子どもたちの学習支援や地域との交流を通じ、地域貢献のできる大学の役目を果たしていきます。



備前市

上郡町

本学



「夏休み宿題教室」 開催報告

夏休み宿題教室も8年目の開催となりました。本学学生が地域の小学生に学習を支援することを通して、学ぶことの喜びを伝え、地域との交流をはかっています。



SSW親子交流イベント

9月22日(木・祝)にスクール(学校)ソーシャルワーカー(SSW)養成課程の学生による親子交流イベントが開催されました。今年度は「ゲームに遊びに工作に！！ドキドキ！！わくわく！！探検隊♪♪」と題して、ジェルキャンドル作りやレクリエーション(しっぽとりゲーム、猛獣狩りゲーム)、スタンプラリーなどを通じて、参加してくれた地域の小学生同士やその保護者の皆様に楽しく交流していただきました。

企画を担当した学生たちは、どうすれば参加して

くれた皆様に楽しんでいただけるか、交流が活発になるなどを考えながら、準備を進めてきました。参加してくれた小学生からは「楽しかった」「きれいなキャンドルができてよかったです」「友達がたくさんできた」などの感想が聞かれ、保護者の方からは「子どもとゆっくりと向き合える時間になった」「普段では見られない子どもの一面を見ることができた」など、ご好評をいただきました。事前の準備や当日の運営を通じて学生たちにとっても非常に有意義な企画となりました。

SWEDEN

海外研修 in スウェーデン

8月20日(土)～27日(土)に本学の海外(スウェーデン)研修が行われ、9名の学生が参加しました。

この研修の目的は、①スウェーデンの歴史・文化および福祉・教育・看護(医療)の現状を理解する、②スウェーデンの人々との交流を深め、国際的な視野を養う、③海外での経験や知識を深めると同時に、計画力、情報収集力、行動力を身につける、④放射性廃棄物の地層処分事業について理解するとなっています。

現地では、日本でいうサービス付き高齢者向け住宅や公立の小学校、看護師養成大学などを見学し、その職員やスタッフの方にスウェーデンにおける福祉・教育・看護(医療)の考え方や取り組みについての説明を受けました。参加した学生たちは日本の福祉施設との違いや教育に対する考え方の違い、看護師になるための養成課程の違いなど、様々なことを感じ、興味を持ったようでした。



また、スウェーデンは放射性廃棄物(使用済核燃料)の「地層処分」が世界的に進んでいる国ということで、放射性廃棄物管理施設も見学しました。この施設での研究・実験などを基に、将来的に放射性廃棄物の「地層処分事業」の実施へと移行していくとのことでした。日本でも東日本大震災で大きな影響を受けた福島原発事故の処理は大きな課題となっており、学生たちも問題意識を持つ良いきっかけになつたと思います。

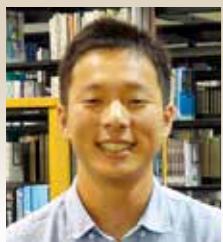
学生研究会（看護学部）主催 第2回講演会

9月17日(土)「寄り添う力」死にゆく者に出来ること」をテーマに、学生研究会（看護学部）第2回講演会が開催されました。学生や教職員の他、一般の方にも多数ご参加いただきました。



講師は宮本直治先生（北野病院薬剤部係長・がん患者グループゆずりは代表・浄土真宗本願寺派僧侶・ご自身も闘病中でありますながら終末期患者の声に耳を傾ける「ビハーラ僧」として心のケアを実践されているので、がん患者が地域で活躍できる社会づくりのために何ができるかなどについて、ご講演いただきました。

木南 向平
(きのみなみ こうへい)



社会福祉学部 社会福祉学科 4年次
兵庫県
佐用高等学校出身
日本年金機構内定

大学の「社会保障」の講義がとても好きで、特に年金制度の仕組みに興味っていました。大阪の合同企業説明会に参加した際、日本年金機構もブース出展されていて、担当の方とお話をさせていただき、「大学で学んでいることが役立つな」と実感しました。内定をいただけた要因はいろいろありますが、キャリア開発課の方には本当にお世話になりました。履歴書の添削や模擬面接など毎日のように窓口に足を運び相談に乗っていただきました。また、自己分析や企業研究も怠ることなくじめに取り組んだことも内定をいただけた要因だと思います。今後は、自分を大切に、周りを大切に誠実で信頼される社会人になりたいと思います。

塙本 寛子
(つかもと ひろこ)



社会福祉学部 社会福祉学科 4年次
大阪府
宣真高等学校出身
兵庫県警合格

将来についてともと「人の役に立ちたい」と考えていて、「福祉」なら人の役に立てると想い、関西福祉大学に入学しました。大学1年生の時に警察官として働く卒業生の方とお話しする機会があり、「福祉を学んで、警察官として人の役に立ちたい」と想い、警察官を目指そうと思いました。採用試験に向けて、過去問題や問題集を何度も何度も解きました。また、体力試験に向けて、音楽を聞きながらわざと30分、ランニング30分、筋トレ10分など目標を決めて取り組みました。就職後は、女性警察官として被害者支援や虐待、DVなどの犯罪防止や抑止につとめたいと思います。悲しむ人を一人でも少なくしていくたいと思います。

うちの学生こんな学生（内定者特集）

高橋 克和
(たかはし よしかず)



社会福祉学部 社会福祉学科 4年
兵庫県
相生高等学校出身
相生市役所合格

3年次に相生市社会福祉協議会で社会福祉実習をさせていただき、その際に本学卒業生の職員の方から「市役所を受けてみたら」とアドバイスをいただき、もともと社会福祉士の仕事は行政の動きと地域の人の生活とを合わせて課題を解決していくものだと考えていたので、関西福祉大学で学んだ社会福祉士の知識を活かし、自分の生まれ育った市に貢献したいと思い、相生市役所の採用試験を受験しました。キャリア開発課が実施している公務員講座や模擬面接、集団討論などに積極的に参加し、問題の出題傾向を把握し、面接の雰囲気にも慣れるように準備しました。また、生まれ育った相生市のことを改めてよく調べたことも面接の際に役立ちました。

岩谷 淳紀
(いわたに じゅんき)



社会福祉学部 社会福祉学科 4年
岡山県
岡山工業高等学校出身
岡山県警合格

岡山県警に就職が内定しました。小さいころから憧れていた警察に内定をいただけてほっとしています。父も警察官で、小学校のころから続けている剣道を教えてくださった方も警察官だったので、自然と警察官になりたいと憧れるようになっていました。3年生の秋ごろからキャリア開発課に通い、過去問題を解いたり、面接練習をしたりと採用試験に向けて準備を進めていました。また、剣道部での主務としての経験から管理能力や計画力を身につけることができたことも採用試験合格に大いに役立ちました。今後は、警察官を目指している後輩たちの見本になれるような社会人、警察官になりたいと思います。

参加学生からは「宮本先生の講演を聞かせてください」が普段使っている言葉が本当に相手を思っての言葉なのかを発した。自分が発した言葉が相手にどのように伝わるのか、医療者と患者とは感じている世界、見ているものが違うことを学びました。もつとcareについて考えていかなければならぬ、相手のことを大切にしていきたいと思いました。「宮本先生のご講演を聞き、もっと真剣に「死」という存在に向き合い、向き合った後にどのような生き方をするのか、どのように自分の人生の価値を高めるのかを考えようと思いました。」といった感想が寄せられました。

ひとくちメモ

平成28年10月1日現在

■開	学: 平成9年(1997年)4月
■開	設: (社会福祉学研究科) 平成21年(2009年)4月 (看護学研究科) 平成24年(2012年)4月 (発達教育学部) 平成26年(2014年)4月
■学部・学科	社会福祉学部・社会福祉学科 発達教育学部・児童教育学科 看護学部・看護学科
■大 学 院	社会福祉学研究科・看護学研究科
■学 長	加藤 明
■教 員 数	専任(助手を含む) 社会福祉学部 20名・発達教育学部 17名・ 看護学部 34名 社会福祉学研究科(9名)・看護学研究科(15名)
■職 員 数	49名
■学 生 数	社会福祉学部 415名・社会福祉学研究科 2名 発達教育学部 207名 看護学部 388名・看護学研究科 9名
■教員一人あたりの学生数	社会福祉学部 20名 発達教育学部 12名 看護学部 11名
■卒業生数(学部)	累計 4,344名
■卒業生数(大学院)	累計 32名
■社会福祉士合格者数	累計 1,444名 (※累計人数は全て既卒者込み)
■精神保健福祉士合格者数	累計 280名
■看護師合格者数	累計 565名
■保健師合格者数	累計 385名
■敷地	59,674 m ²
■延床	19,745 m ²

編集後記

すっかりと過ごしやすい気候になり、「秋になったなあ」と感じる今日この頃です。今年は大学祭が例年に比べ1週間早く開催されたので特に秋の訪れは早く感じました。例年大学祭の時期になると、大学祭実行委員の学生がいろいろな相談や申請のために窓口を訪れます。今年は開学から数えて20回目の節目の大学祭ということで、実行委員の学生たちもなんとか成功させたいと頑張って企画や運営を行いました。この大学祭の企画・運営を通じていろいろなことを学び、身に付け、今後の大学生活に活かしてほしいと思います。(H)

季節はすっかり秋になりました。秋といえば、「読書の秋」や「スポーツの秋」、そして「食欲の秋」と言われます。運動するのに暑くもなくまた寒くもない気候、日が暮れるのが早くなり、ゆっくりと読書することができる夜の長さ、いろいろな野菜や果物、魚介類が旬を迎え、ついつい食べ過ぎてしまう美味しい…。今年も残すところあと2ヵ月余りとなり、年始に立てたダイエット目標の達成のため、「食欲の秋」ではなく「スポーツの秋」にしたいと強く思っています。(T)

大学院看護学研究科

看護学専攻に博士後期課程を開設します。

本学では、文部科学省へ「看護学研究科 博士後期課程」の設置認可申請を行っておりましたが、2016年8月31日(水)付にて認可されました。

これにより、2017年4月より「看護学研究科 博士後期課程」(定員3名)を開設いたします。

「看護学研究科 博士後期課程」の開設により、看護学部による学士課程(4年間)・看護学研究科 博士前期課程による修士課程(2年間)、さらに看護学研究科 博士後期課程による博士課程(3年間)へと至る高等看護学教育における9年間の総合的かつ一貫性のある教育システムが構築されます。

第2体育館新築工事のお知らせ

校友会並びに教育後援会のご理解とご支援をいただき、平成29年3月末の完成をめざし、第2体育館を新築することになりました。既設の体育館の北側に隣接して建設し、鉄骨平屋で床面積は、1,022m²、公式バレー・ボールコート1面・練習コート2面、バドミントン公式コート3面、バスケットボール公式コート1面(いずれも、兼用スペース)が設けられる予定です。体育の授業を始め、体育系クラブ活動の活性化につながることが期待されています。

(完成予想図)



(色やデザイン等は変更になる場合があります)

2016年度 第1回学生選書

図書館では、図書館に置いてほしい本を学生が選ぶ「学生選書」を、昨年度に引き続き本年度も実施しています。

今年第1回目の前期学生選書では、社会福祉学部・発達教育学部・看護学部各2組の学生より、「子どものためのトラウマフォーカスト認知行動療法」等の専門書から「ブレイブ・ストーリー」「塩の街」等の小説など様々な本が選ばれました。選ばれた本と学生作成のPOPを図書館の展示スペースに設置しています。



地域の伝統行事へのボランティア参加～坂越の船祭り～

10月9日(日)に行われた坂越の船祭りに本学の学生がボランティアスタッフとして参加しました。

坂越の船祭りは瀬戸内三大船祭りの一つに数えられる勇壮な伝統行事で、十数隻の船が旗やのぼりを立て、生島へと巡航していくお祭りです。そんな地域の伝統行事に毎年本学の学生がボランティアで参加しています。学生は地域の伝統行事に参加することで、地域のことを学び、祭りを通して地域のコミュニティとは何かを学ぶ良い経験になったと思います。

